

日本古代中世の社会と宗教

みやざきけんじ
宮崎健司 [編] (大谷大学文学部教授)

A5判・上製カバー・五四四頁・本体八、〇〇〇円＋税

2025年3月刊行



日本の古代中世の社会において仏教や神祇信仰などの宗教が果たした役割を多角的に論じ、社会と宗教という視点の重要性をあらためて問い直す。問題意識を同じくする研究者22名による論集。

緒言

第1部 仏と神のかたち

八・九世紀における僧尼と財について
僧侶の社会事業と在地信仰
比叡山諸院と初期天台宗の形成
諸国講読師制度に関する二題

『日本三代実録』の願文にみる仏教思想

今木神の原像——日本の祖先信仰成立過程の解明のために——

国陰陽師制の変遷について——怪異をめぐる中央と地方の関係——

静岡市山間部に伝わる二軀の大日如来坐像について

院政期貴族社会における聖俗の交流について

法隆寺一切経『開元釈教録』巻第十九について

親鸞における社会と仏教——観音・太子両信仰との応答を中心に——

千葉氏妙見信仰と比叡山

龍安寺蔵「義天玄承料九条袈裟」を纏う頂相群について

[宮崎健司]

[堅田 理]

[関山麻衣子]

[中林隆之]

[駒井 匠]

[工藤美和子]

[佐藤文子]

[細井浩志]

[横田泰之]

[杉本 理]

[宮崎健司]

[東館紹見]

[岡野浩二]

[大平敏之]

第2部 社会と文化の諸相

生駒山東陵にみる古代墳墓の一考察

桑田玖賀媛・播磨速待伝承の成立とその背景

牛頭窠跡出土ヘラ書須恵器に関する一考察

称徳天皇の神仏観と神仏列挙

日本古代の鮎(鮎) 補論

延暦年間における公廨稲停止・再設置についての再検討

『弘決外典鈔』撰述過程の検討(序説)——「外典目」を中心として——

デジタルアーカイブ検索の実践例——平安時代の占いを手掛かりに——

諏訪市博物館蔵「慶応四年十一月五日分東京着分の日記」翻刻と概要

[三澤佑里香]

[西村雅美]

[古市 晃]

[門井慶介]

[新井真帆]

[櫻井信也]

[増成一倫]

[小倉慈司]

[伊藤実矩]

執筆者一覧

【編者略歴】1959年、兵庫県出身。大谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。現在、大谷大学文学部教授、大谷大学博物館長。専門は日本古代宗教史。著書・論文に、『日本古代の写経と社会』(塙書房、2006年)、『正倉院文書を考える』(共著、法藏館、2024年)、『「仏法東帰」考——大仏開眼会への道程——』(『大谷大学研究年報』74、2022年)などがある。

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

日本史・宗教

注文書

(書店名)

ご担当

様冊

法藏館

宮崎健司編

八、〇〇〇円＋税

日本古代中世の社会と宗教

ISBN978-4-8318-7791-8 C3021

ご住所

お電話

お名前